

令和 6 年度福島県歯科保健対策協議会 議事概要【決定稿】

日時： 令和 7 年 1 月 29 日（水） 13 時 00 分～14 時 30 分

場所： 杉妻会館 3 階百合の間

出席委員： 委員 18 名中 14 名

（有馬委員、廣瀬委員、阪本委員、中島委員、丹野委員、本間委員、小林委員、
市川（よ）委員、中村委員、遠藤委員、安田委員、阿部委員、佐藤委員、星委員）

議事概要：

協議事項 （1）福島県歯科保健基本計画の進捗状況及び評価について	
事務局	【資料 1-1～1-2 について説明】 （※意見等なし）
協議事項 （2）令和 6 年度歯科保健対策事業実績について	
事務局	【資料 2-1～2-1-1 について説明】 （※意見等なし） ・各関係団体より資料 2-2 により、補足も含め説明。（詳細は資料参照）
市川委員 （福島県看護協会）	看護師を対象に「看護師が行う摂食嚥下ケアとその考え方」をテーマで研修会を実施した。
有馬委員 （福島県 PTA 連合会）	特に行事として取組はないが、会議資料の共有を図りながら PTA 会員への周知に努めている。
廣瀬委員 （奥羽大学歯学部）	高齢者施設における口腔機能管理の実施。また、福島市歯と口腔の健康づくり推進委員会の参画や、歯の衛生週間における地域歯科医師会主催事業への支援等実施した。
阪本委員 （福島県歯科医師会）	乳幼児期では、よい歯の幼稚園を表彰し、学齢期では歯科衛生図画等のコンクールを実施した。ポスターでは、全国コンクールで中学生が文部科学大臣賞・最優秀賞を受賞した。また、福島県学校歯科保健優良校表彰では、福島県から全国に 4 校推薦し、優秀賞（文部科学大臣賞）に下郷町立江川小学校が受賞した。 成人期では、働く世代を対象に、スマホでセルフチェックができる Web プログラムを作成し、ほぼ完成の状況である。
中島委員	高齢期では、介護対応研修会などの研修会を開催した。その他として、ヒト歯を用

<p>(福島県歯科医師会)</p>	<p>いた被ばく線量評価事業や「いきいき健康づくりフォーラム」において、オーラルフレイルについて啓発活動を行った。</p>
<p>丹野委員 (福島県歯科衛生士会)</p>	<p>乳幼児期では、市町村母子保健事業への協力として、1歳6か月児や3歳児健診、その他の乳幼児健診における歯科保健指導やフッ化物塗布の実施、育児相談会等の各種教室における歯科保健指導を実施した。</p> <p>また、学校保健事業への協力として各学校への歯科健康講話や歯科保健指導等を実施。</p> <p>成人期は、事業所従業員に対し、歯科健康講話、歯科保健指導、歯科相談等を実施。高齢期では、市町村自立支援型地域ケア会議に参加。平成29年度は、11市町村のみ歯科衛生士の参画であったが、令和5年度は45市町村で年間190回、389事例を検討した。</p> <p>その他として、4年ぶりに各支部での健康フェアを開催、11月8日の「いい歯」に合わせたイベントを実施した。</p>
<p>本間委員 (福島県老人保健施設協会)</p>	<p>各老健施設の入所では口腔衛生管理における専門職による口腔ケア(歯科医師・歯科衛生士)の実施を行い、更に、日常的な口腔ケアを実施する介護職員に対する助言・指導等が行われている。</p> <p>通所リハビリテーションにおいては、運動・口腔・栄養の一体的なスクリーニングとともに、口腔清掃の指導、摂食嚥下訓練の指導・実施が行われている。</p> <p>誤嚥性肺炎の予防として間接的な嚥下トレーニングでは、従来の嚥下体操に加え、ボール潰し(CTAR)による嚥下関連筋の強化や吹き戻しによる呼吸機能の改善のプログラムも取り入れている。</p>
<p>小林委員 (障がい児者福祉施設協議会)</p>	<p>障がい者は、本人の歯科に対する自覚が乏しく、お口の中がだいたい放置されている状況である。今回の協議会の動向で取り組みを考えていきたい。</p>
<p>中村委員 (福島県保健衛生協会)</p>	<p>令和6年度は、住民健診5町517人の方が歯周病健診を受診した。</p>
<p>遠藤委員会 (全国健康保険協会福島支部))</p>	<p>小学校高学年を対象に、生活習慣病に関する健康教室を開催し、その中で歯の健康についても実施。歯科医師会に御協力を頂き、相馬市内の小学校3校で実施をした。</p> <p>成人期は、歯科医師会に協力頂き、健康事業所宣言を行っている2事業所に出前講座を実施。また、口腔ケアに関する健康情報誌を約2,000事業所に配付。</p>

<p>安田委員 (町村会)</p>	<p>福島県町村会独自としては特にはない。 関係団体等連携しながら、それぞれ市町村ごとに実施している。</p>
<p>阿部委員 (福島県小学校長会)</p>	<p>小学校では、県内各地区おおむね同じような形で、歯の健康について重点を置きながら、教育活動の中で子供たちの啓発等進めている。 歯科健診結果を中心に、伝えていくということを毎年行っている。各学校の職員だけではなく、学校保健委員会を開催しながら、情報共有を保護者にも行い、年間通じて、各校の課題の軽減解消につなげている。 学校では教育計画をつくり、計画的に進めている。全学年の学級活動等で実施している。養護教諭と学級担任と一緒に指導方法を工夫し、歯の染め出しを行い、子どもたちが理解しやすいような取組をしている。また、保護者に対しても、長期休業中に歯磨き等の習慣が継続されるように、連携しながら進めている。</p>
<p>佐藤委員 (福島県中学校長会)</p>	<p>中学校長会として、直接的な活動というのではないが、各学校で保健指導に関しての全体計画があり、各学校の実態に応じて、指導を深めているところである。</p>
<p>星委員(福島県学校保健会養護教諭部会)</p>	<p>中学校区ごと県内20の支部・ブロックごとの取組としては、①歯科検診の結果の分析 ②発達段階や課題に即した歯と口の健康教育の実施 ③生活習慣の改善に関する健康教育の実施 ④歯と口の健康に関連付けた食育の実施 ⑤昼食後の歯みがきの励行 ⑥自治体と連携したフッ化物洗口の実施 ⑦保護者への啓発活動の実施 ⑧学校歯科医や地域の歯科衛生士と連携した健康教育の実施 ⑨地域学校保健委員会での協議</p> <p>(※意見等なし)</p>
<p>協議事項</p>	<p>(3) 令和7年度歯科保健対策事業(案)について</p>
<p>事務局</p>	<p>【資料3-1について説明】</p> <p>資料3-2 各関係団体から令和7年度新規で取り組む予定はなし。 (※意見等なし)</p>

協議事項	(4)「口腔保健支援センターの設置について」
事務局	<p style="text-align: center;">【資料4-1、4-2、4-3について説明】</p> <p><質問、意見等></p>
阪本委員	<p>現在、口腔保健支援センターの設置の素案ということで、我々もこういうものができることは非常に嬉しい。地域歯科保健に取り組む司令塔的なセンターというのは、今までなかった。県内初となる。こういうセンターができて、歯科保健情報システムにあるデータやレセプトデータ、ビッグデータの活用も多分できると思う。</p> <p>当県は、会津・中通り・浜通りと地理的な要因は非常に偏ったところがある。県の平均と言っても現状があらわれていない。圏域ごとで、データをつくり、各保健所でその地域の傾向や歯科保健のものを示していただきたい。歯科医師会も、地域の先生方と一緒に検討し、このセンターを良いものに仕上げていきたいと思う。今後細かいところを相談し合いながら、歯科医師会として協力していきたい。</p>
事務局	<p>根拠に基づく施策が重要であり、圏域市町村別のデータを分析し、情報発信していきたい。</p>
安田委員	<p>県が設置するこのセンターと保健所設置市との関係について。</p> <p>市が今後、センターを設置する予定はあるのか。</p> <p>全国的にどのくらいセンター設置されているのか。</p>
事務局	<p>現時点で保健所設置市における設置に関する情報は入ってきていない。保健所設置市は人口も多く、人口が多い地域の歯科口腔保健が改善すると県全体にも大きく影響を及ぼすため、保健所設置市と連携して取り組んでいきたい。</p> <p>まずは県でセンターを設置し、保健所設置市を含む、県内全域をカバーする形で取り組んでいく。</p> <p>設置状況は、38都道府県で設置、未設置が11都道府県となっている。</p>

協議事項 (5) その他	
本間委員	<p>資料4-3に、80歳代で20歯以上の者の割合、80歳代の約4割が歯周炎を有しているとする。皆さんにぜひ御理解頂きたいのは、老人保健施設のデータで恐縮であるが、入所者の要介護度は、老人保健施設全体で大体3.1～3.5ぐらいである。ただ、その中で、認知症を有している利用者は、86.7%ぐらい。重度の認知症でなくとも、認知症を有している。</p> <p>自分の歯が残っていても、歯周病でぶらぶらになっていて、それを飲み込んでしまう窒息の問題がある。認知症の問題と歯周病の問題があり、ただ80歳代で20歯以上と、歯が残ったからいいということではない。色々と絡んで対策をしていけるように、改善もお願いしたい。</p> <p>深刻な問題として、例えば部分義歯を自分で食べてしまったとか、重度認知症の方で、食事介助のときに目を離したときにスプーンを吞んでしまった等、考えられないようなことが現実的には起こってきている。</p> <p>施設入所者はまだいいが、在宅で重度の認知症をケアしているとなると、かなり私はもっと色々な事案が発生しているのではないかと考える。非常に暗い話で恐縮だが、現実にはこのようなことがあることをぜひ認識していただきたい。</p>
小林委員	<p>障がい者の支給額年金をみると、生活するのに困窮し、歯科医院に行けない方も沢山いる。歯科受診を勧めたりするが、生活することで精一杯な方もおり、歯科医院に行くことの優先順位は低い状況。そのあたりも、ぜひ口腔保健支援センターを設置する背景に入れていただき、歯科検診や啓発活動等、より障がい者の方達に届く視点も入れていただければ大変助かる。</p>
阪本委員	<p>なかなか県の歯科医師会としても、障がい者のほうには、今までそれほど多く取り組んでいるような状態ではなかった。非常に難しい問題も絡んでいたりする。</p> <p>今後色々お話しさせていただきながら、歯科医師会としてはどのようなことができるかどうか、相談してまいりたいと思うので、ぜひともよろしくお願いしたい。</p>
	閉会